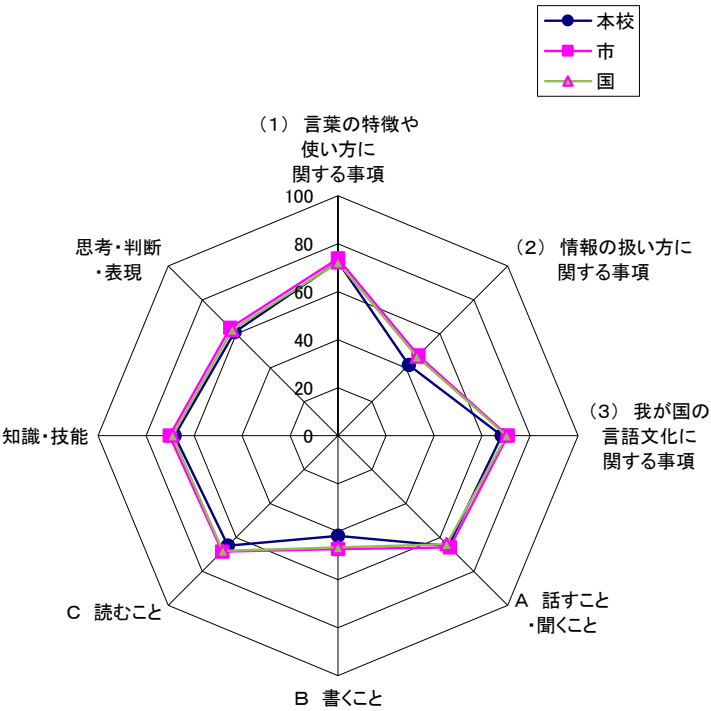


宇都宮市立陽西中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	72.5	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	41.7	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.2	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	65.0	65.9	63.9
	B 書くこと	41.7	47.3	46.5
	C 読むこと	64.9	68.3	67.9
観点	知識・技能	68.1	70.2	69.0
	思考・判断・表現	61.0	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

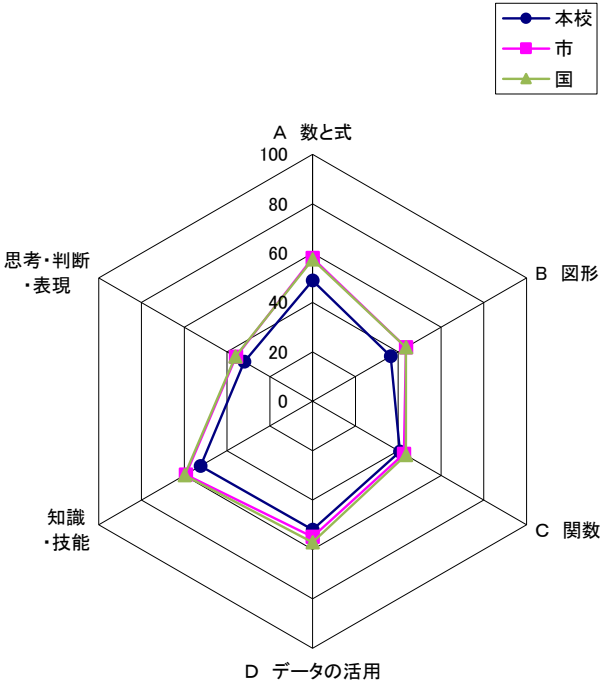
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国平均を0.3ポイント上回り、市平均を1.3ポイント下回った。 ○関連する6問中3問が市平均を、4問が全国平均を上回ったが、表現技法や助動詞の働き、目的に応じた語句の使い分けに課題が見られる。	・日常生活で用いる語句について、辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことをさせる。話や文章で用いられる言葉の意味や働き、特徴や性質などを考えることで、場に応じた言葉遣いを理解させる。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国平均を4.8ポイント、市平均を5.6ポイント下回った。 ●「資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに書き加える」という設問では、全国平均を4.8ポイント下回った。得られた情報を吟味し、要不要を判断して利用するといった、情報の扱い方について課題が見られる。	・文章や談話を扱う授業で、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などを意識させることや情報の分類や整理などを通して、情報と情報の関係などについて理解を深めさせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、関連する3問中3問が全国平均を2.0ポイント、市平均を2.5ポイント下回った。 ●「漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する」設問では、全国平均を2.7ポイント下回った。楷書と行書の比較によるそれぞれの特徴の理解に課題が見られる。	・言語の特徴や使いに関する事項で扱う漢字の学習について、正確に読み書きできるようにさせることで、楷書と行書の筆順の違いに気付かせたり、正しい文字を書くことを心掛けさせたりする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を1.1ポイント上回ったが、市平均を0.9ポイント下回った。 ○「話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する」設問では、全国平均を2.3ポイント上回ったが、聞き手を考慮して表現を工夫することには課題が見られる。	・目的や場に応じて話題を選んだり、自分の立場や考えが明確になるように適切な根拠や構成、展開を工夫したり、相手の反応を踏まえながらわかりやすい表現を工夫したり、場の状況に応じてわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す機会を設ける。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を4.8ポイント、市平均を5.6ポイント下回った。 ●自分の考えをわかりやすく伝えるために資料を引用したり根拠を明確にすることに課題が見られる。	・資料を適切に引用して、自分の考えをわかりやすく伝えるように文章を工夫したり、読み手の立場に立って効果的な表現を工夫したりする機会を多く設ける。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を3.0ポイント、市平均を3.4ポイント下回った。 ●「話の展開に沿って登場人物の行動や心情を答える」設問では、全国平均を2.0ポイント下回った。 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することに課題が見られる。	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容をとらえたり、人物の言動の意味を考えたりする機会を多く設ける。日常の授業においても良書を紹介したり読解指導を継続することで、楽しむ読書から考える読書へと指導する。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	48.9	58.0	57.4
	B 図形	36.4	43.6	43.6
	C 関数	40.8	42.7	43.6
	D データの活用	52.0	54.9	57.1
観点	知識・技能	52.4	59.3	59.9
	思考・判断・表現	32.0	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

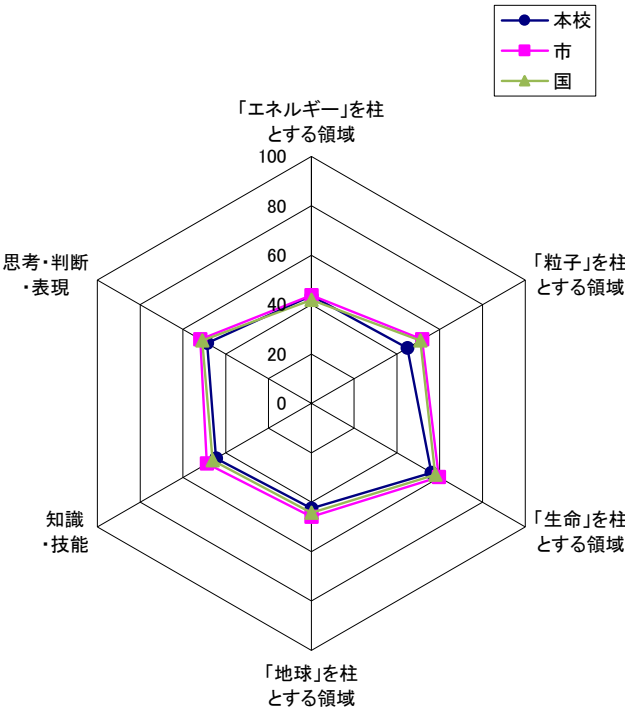
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、全国平均を8.5ポイント、市平均を9.1ポイント下回った。 ●「自然数を素数の積で表すことができる」では、全国平均を12.8ポイント、市平均を10.5ポイント下回った。また、「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」では、全国平均を13.4ポイント、市平均を14.5ポイント下回り、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」では、全国平均を10.4ポイント、市平均を10.5ポイント下回った。「結論が成り立つための前提を考え、新たなことがらを見出し、説明することができる」では、26.9ポイントの無解答があった。	・基礎的な計算力の向上に向け、計算テストを行い、正答率を高める。 ・数の性質の証明については、文字に具体的な数を当てはめることにより、その性質が成り立つことを確認できるという意識の涵養を図りたい。そのため、問題演習の際に具体例を取り上げる時間を十分に確保する。
B 図形	平均正答率は、全国平均を7.2ポイント、市平均を7.2ポイント下回った。 ●「反例の意味を理解している」では、全国平均を7.8ポイント、市平均を7.5ポイント下回った。また、「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」では、全国平均を11.5ポイント、市平均を12.8ポイント下回った。「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。」では、43.4ポイントの無解答があった。	・図形についての定義や定理、性質などの学習を丁寧に扱い、理解の深化を図る。また、複数の図形が取り入れられた問題において、着目すべき視点や要点に気付くことができるよう、練習の機会を増やす。 ・教材・教具に具体物を多く取り入れる等の工夫をし、理解を促す。
C 関数	平均正答率は、全国平均を2.8ポイント、市平均を1.9ポイント下回った。 ○「一次関数の変化の割合の意味を理解している」では、全国平均を2.1ポイント、市平均を4.7ポイント上回った。 ●「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」では、全国平均を7.7ポイント、市平均を7.6ポイント下回った。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」では、29.7ポイントの無解答があった。	・関数を「表」「式」「グラフ」に表し、それぞれを相互に関連付けて、考察できるような力を育成する。また、それを利用し、問題を解決するための論理的な思考や演繹的な思考の涵養を図る。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を5.1ポイント、市内平均を2.9ポイント下回った。 ●「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」では、全国平均を10.3ポイント、市平均を5.0ポイント下回った。	・資料の活用に関しては、何を調べたいのか、どの方法で調べるのかを明確にし、その理由を多角的に説明する活動を通して理解を深めていく。 ・ヒストグラムや度数分布多角形については、図に表すことだけでなく、どのような傾向があるのかを考察する活動を通して理解を深めていく。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.6	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	44.9	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	56.1	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	42.5	45.9	44.3
観点	知識・技能	44.6	48.8	46.1
	思考・判断・表現	48.7	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を1.7ポイント上回り、市平均を0.2ポイント下回った。 ○おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題では、全国平均を4.1ポイント上回った。 ●タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する問題では、全国平均を3.6ポイント下回り、探求の過程に課題が見られる。	・今後も視覚的に理解できる現象は図示することで、規則性を見つめる力を育成していく。このことは、1年生の光・音・力や2年生の電流、3年生の運動の学習に役立つことが期待できる。 ・オームの法則や位置エネルギー等、課題をもとに実験の計画を行い、結果から考察する探究の流れにより、規則性を見つけ、その法則を使いこなす力を育てる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を6.0ポイント、市平均を6.9ポイント下回った。 ○水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとを指摘する問題では、全国平均を3.8ポイント上回った。 ●水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題では、全国平均を11.1ポイント下回り、思考力・表現力に課題が見られる。	・1年生の状態変化や2・3年生の化学変化について、物質の変化をモデル化することで考え、言葉で説明することや化学変化を式で表す力を育てる。 ・実験器具の使い方を丁寧に説明して、器具を正確に使いこなせる知識を育てたうえで、実践的な場の設定を行い、技能を身に付けさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を1.8ポイント、市平均を3.5ポイント下回った。 ○脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節に対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する問題では、全国平均を1.3ポイント上回った。 ●生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する問題では全国平均を4.9ポイント下回り、生物のなかま分けに課題が見られる。	・生物のなかま分けは、共通点と相違点を見つ分類することを大切にしていく。 ・植物分野、動物分野ともに、体のつくりやはたらき等、探究し観察・実験を行っていくとともに、基礎的・基本的な内容を丁寧に説明していく。復習を行うことで知識を定着させていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を1.8ポイント、市平均を3.4ポイント下回った。 ○気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の变化と関連付けて、適切な天気図を選択する問題では、国の平均を3.8ポイント上回った。 ●陸上のある地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する問題では国の平均を8.3ポイント下回り、地質について考察する力に課題が見られる。	・身近にあるものを生徒の手に取らせることで、自分が住んでいる場所や地域の成り立ちなど、地質に関する事象への関心を高め、知識を活用して、考察する場を設定していく。 ・日本列島における季節や天気の変り変わり、北半球における天体の観測や星の日周運動や年周運動についての探究心を大切にいく。